

【エッセイ】 私は特別、福祉に対して興味があるわけではない。むしろ避けたい単語だ。自分の中のイメージは、大変で少しマイナスなイメージがある。それなのに何故田方農業高校ライフデザイン科セラピーコースを選択したのか。それは少しでも自分の中から偏見をなくしたいという思いがあるからだ。私自体「偏見」が悪いとは思っていない。この世から偏見がなくなってしまうたら一人ひとりの意見が消え、「個性」もなくなってしまうと思っている。

それなのに何故、それでも偏見をなくそうとするのか。それは他人の気持ちを少しでも理解したいと思っているからだ。万人に共感、理解してもらえる意見が言えずとも、私が万人の意見を聞いて少しでも理解してあげられるのではと最近そういう考えが生まれたからだ。その考えが生まれてからは、自分の中では否定的だった意見や考えも一旦客観的に考えてみて、できる限り理解を深めようと努力している。

私がセラピーコースを選択したのはこの考えが理由だ。福祉のことを少しでも理解したいという気持ちと、他人と交流する機会の多いこのコースは今の私にぴったりだと思ったからだ。そして実際セラピーコースに入って感じたことが、私は他人のことを「想い、考える」ことができて、それに対して「行動」ができていないと強く感じた。授業で提案や意見を言うことができて、いざその準備をすると「あ、面倒くさいな。」と正直思ってしまう。そこが自分の本当にダメな所だと思う。考えることは誰にだってできる。でも、行動することは大人にとっても難しいことだと私は思う。ならば行動してみよう！ということで、今年2年生になってから何度か校外のボランティア活動に参加させていただいた。どれもやる前までは「だるいな、面倒だな。」とどうしても思ってしまった。けれども、いざ行動すると「楽しいな。」と自然に感じる事ができて、どの活動も終えた時に達成感を味わうことができた。

それは私にとって大きな進歩だった。今まで面倒で止まっていたものが達成感を味わい「また次もやってみよう！」とモチベーションも上がり、それらを感じる事ができて少し嬉しかった。

福祉という言葉は今まで避けていたけれど、いざ思い切って当たってみると「案外いけるかも？」と気付くことができた。この小さな発見がこれからの私を大きく変えることを信じて、これからを行動していこうと思う。